

のりみが行く!!

金沢区六浦川護岸について



金沢区六浦川御岸について

六浦川は、六浦ポンプ場からの排水（合流雨水）のみを受け平潟湾へ放流されている。公共下水道としての計画（管径は未定）もあるが、現状では一般下水道として維持されている。ここで、平成18年10月7日から8日にかけて、六浦川を中心に高潮による被害が発生した。この時の高潮被害は、道路冠水及びパラペットの低い箇所での溢水被害等であり、床下浸水の被害はありませんでした。

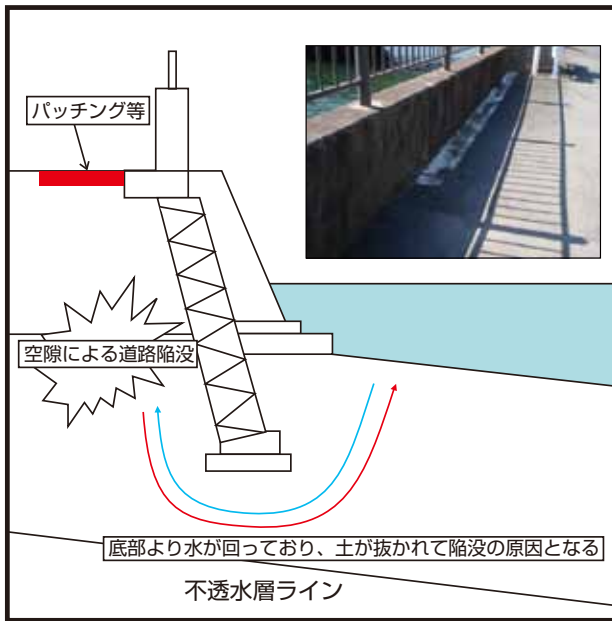
被害状況

- ①左岸側のパラペットの低い箇所での溢水・老朽化護岸の隙間から海水が回りこみ道路の目地から噴出
 - ②右岸側のパラペット継目からの漏水・老朽化した護岸隙間からの漏水
- そこで、「金沢区六浦川護岸補修工事」が平成19年度に実施されましたが、根本的な解決には至っていません。

護岸補修計画については、以下の事が考えられる。

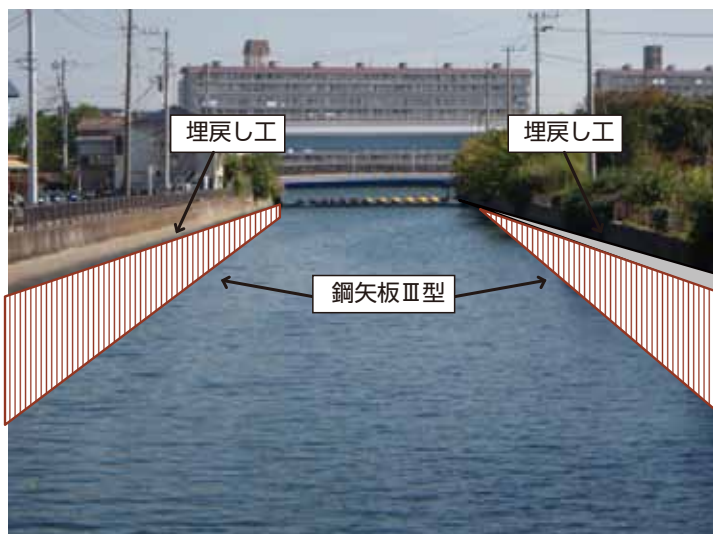
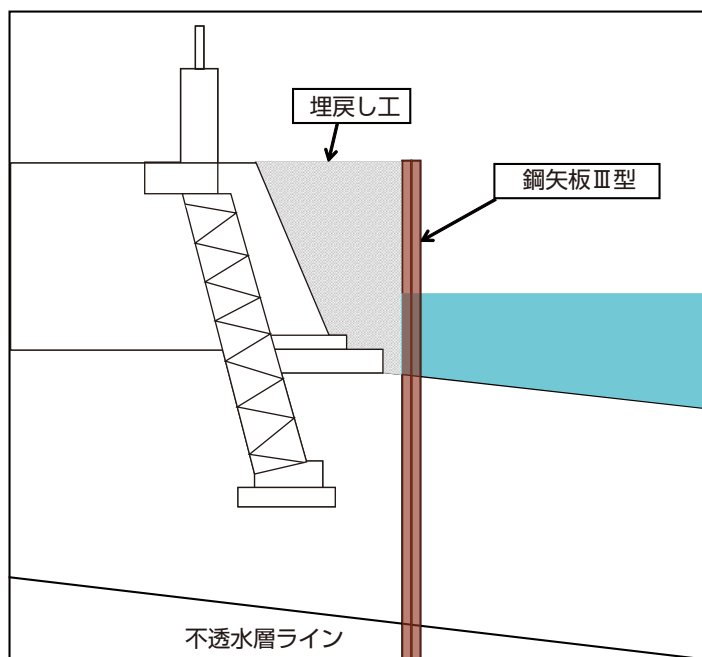
- ①道路ひび割れに対する路面パッチング、街渠柵補修等【短期的応急対応】
- 問題点：抜本的解消になっていない。道路陥没の危険性は払拭されない。

- ②前面コンクリート増厚+遮水矢板工法 護岸継目・亀裂補修【中期的対応】
- 設計検討を受け、平成19年度・平成20年度において施工。



③土留め設置（鋼矢板締切）【中長期的対応】

六浦川両岸に遮水を考慮した鋼矢板Ⅲ型（想定）を打込み、2.0m 程度の平場を築造する。
矢板打込み長は不透水層（シルト層）まで打込む。

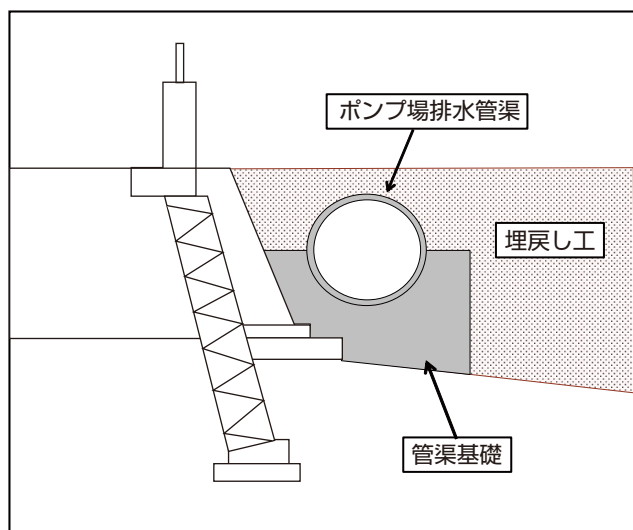


④暗渠埋設（管渠布設）全面的な埋戻し【長期的対応】

六浦ポンプ場（昭和48年運転開始）の排水断面及び放流量（雨水排水能力）としては、
□2550×1800（勾配は下水道台帳に表記なし）及び 11.43m³/秒である。

なお、現在の六浦ポンプ場の運転形態及びポンプ場流入部のセキ高や処理区全体での運転形態を考慮し、
管径や勾配の決定に対して、関係機関との協議を要する。

また、地元との調整、跡地利用の面も含めて協議が必要である。



私は六浦川に近い所に住んでおり、雨が降るたびに六浦川の水位を心配し危惧しております。埋立て造成以降、約50年以上が経過した現況護岸は老朽化が著しく、高潮被害以外にも水位が高い場合は、パラペット継目及び道路のひびわれからの漏水が発生しています。また、護岸の安全面を考えた上でも、今後長期的な計画の必要性があります。地元選出の市会議員としては、再選した時には、この大きな課題について解決に努めていきたいと考えております。